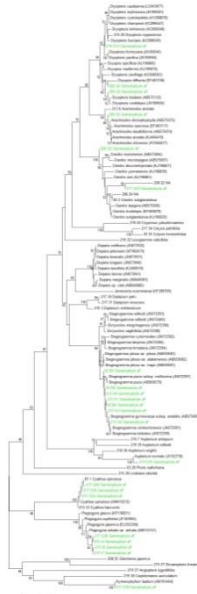


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年	10 月	31 日
所属部局・職	理学部附属 瀬戸臨海実験所	
氏名	吉川 晟弘	

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本 京都府
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
シダ植物の配偶体における種構成とフェノロジー
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 10 月 26 日 ~ 平成 26 年 10 月 30 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学理学研究科 布施 静香氏 香川大学教育学部 篠原 渉氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>日程</p> <p>10月26日 胞子体および前葉体の DNA 抽出、PCR</p> <p>10月27日 胞子体および前葉体の DNA の精製、配列決定</p> <p>10月28日 前葉体の DNA 精製、配列決定</p> <p>10月29日 データ解析</p> <p>10月30日 データ解析 考察 発表の準備</p> <p>11月5日 発表会</p> <p>要約</p> <p>ゲノム実習では、屋久島実習では不可能であった前葉体の同定を行い、胞子体の種構成と比較を行うことを目的とした。地点ごとに集めたそれぞれの前葉体でバウチャー標本と DNA 解析用標本を作製した。DNA 解析用標本の一部を切り取り、その破片から DNA を抽出した。その後、目的配列を PCR 反応させることで増幅し、増幅させた配列とジーンバンクに登録されている DNA 配列とを比較することで同定を行った。屋久島実習で作製した胞子体の DNA 解析標本も同じように DNA 抽出、配列決定した。目的配列は rbcL 遺伝子とした。その後、これらの配列データを用いて、各地点における胞子体および前葉体の構成種の違いを比較、系統解析を行った。</p> <p>合計 22 個体の胞子体と 22 個体の前葉体の DNA 配列を決定し、解析および比較を行った。続いて 11 月 5 日に行われる発表会において、屋久島実習およびゲノム実習を合わせた研究結果を発表する。</p>

Fig. Phylogenetic tree of fern
6. その他 (特記事項など)